

東海大学機友会々報

第三回総会開催される

次期会長に河西正彦氏!!

東海大学機友会第三回総会は、昭和六十二年十一月三日、文化の日、東海大学湘南校舎12号館において開催された。

当日は東海大学建学祭の最中であり、天候にもめぐまれたためキャンパスは多くの人でにぎわった。総会会場である12号館は、すでに本会報2号および3号で紹介されたように、工学部新館として機械系旧実験棟跡に建て直された11階建ての建物であり、機械系三学科(動力、生産および精密の各機械工学科)の研究室、実験室および製図室などがこの建物の中にある。

今回の総会は新しく生まれ変わったこの機械系の建物を同窓生に見てもらおうと湘南校舎で開催することになり、また久しぶりに家族とともに建学祭を楽しんでいただくためこの時期が選ばれた。期待通り出席者のほとんどが家族同伴であり、楽しい一日を過ごしていた。



新しい製図室における総会

生に見てもらおうと湘南校舎で開催することになり、また久しぶりに家族とともに建学祭を楽しんでいただくためこの時期が選ばれた。期待通り出席者のほとんどが家族同伴であり、楽しい一日を過ごしていた。



懇親会で司会する内山氏

それを選出されて議事が進められた。主な議題は第三期役員を選出である。小林会長より、機友会設立の時から二期(約6年間)会長を務め、本会もようやく軌道に乗ってきたので、第三期は交代させていただきたいとの発言があり、審議された。その結果、河西正彦副会長が次期会長に推薦され、満場一致で可決された。河西氏もこれを快く受け入れ、「引き受けた以上、一生懸命やりたい。皆様のご協力をお願いしたい」と挨拶した。河西氏は41年度第二工学部機械工学科を卒業して大学院に進学、それを修了後レグセル工業株式会社を設立、現在社長である。続いて会計および監査の選出である。現在の会計より、同一人が長年やるより各期ごとに交代した方がよいとの意見もあつたが、今の所特に問題もないというところから会計および監査は留任することになった。

なお、副会長および幹事は会則により会長が任命することになっており、4月の新年度までには人選されるであろう。

代議員が無事終了したところで、いよいよ第三回総会が開かれた。内山皓氏(44年度卒)の司会によりまず議長団の選出が行われ、議長に岡田隆夫氏(39年度卒)、副議長に飯島敏雄氏(40年度卒)が選出された。そして正会員出席者32名、委任状回通のもとに議事に入った。議事の第一項は活動経過報告である。「東海大学機友会の組織、運営および活動の概況」という資料が配布され、小林会長より資料にもとづき報告された。その主な内容は次の通りである。

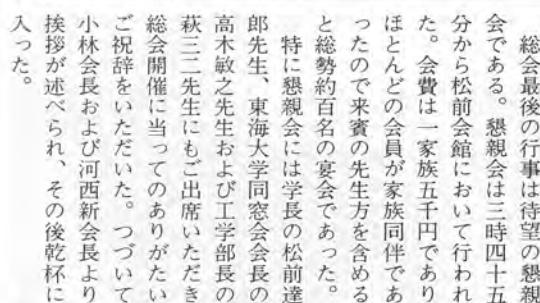
- ①会の業務を分担し、運営を円滑に行うために資料に示す運営組織図を確立した。
- ②機友会設立以来、総会2回、代議員会3回、幹事会7回をそれぞれ開き、運営活動を行ってきた。
- ③機友会で行った主要事業としては、特別講演会、会報の発行、名簿の発行、機友会賞の授与および現役4年生との就職懇談会が挙げられる。中でも名簿の発行は大事業であり、住所録の訂正および広告集めには苦難を極めたが、何とか完成することができた。
- ④会報は年に1〜2報を確実に発行できるように努めてきた。また機友会賞は毎年学料で入選された30名前後の卒業生に授与しており、すっかり恒例となっている。

東海大学機友会事務局
湘南校舎 動機事務室
〒259-12 神奈川県平塚市
北金目1117
☎ 0463(58)1211(内)4321
印刷 信友印刷株式会社
☎ 03(444)2481(代)

には今後とも会員に会費納入を呼びかけていく必要があると報告された。以上の報告に対し、一部質疑応答がなされたが、了承された。議題の第二項は会計報告である。資料にもとづき、山本財務担当幹事より昭和60年度および61年度の会計報告がなされた。ただし、これはまだ監査を受けていないので暫定的な報告であることを付け加えられた。

これに対し、監査の鈴木氏より、60年度、61年度は会員名簿発行のための作業量が多く、現時点ではまだ会計報告の整理がつかないという趣意を述べた。次回の会報で正式に報告することを約束し、本日は暫定的に認めるとの監査報告がなされ、了承された。(第四面に会計報告あり)

議題の第三項は次期役員紹介である。議長より、総会に先立って行われた代議員会において、第三期会長に河西正彦副会長が選出され、また会計には伊藤昌夫氏(40年度卒)、監査には佐々木彰氏(39年度卒)と鈴木良幸氏(41年度卒)がそれぞれ留任することになったとの報告があり、拍手をもって承認された。議題第四項の次期会長挨拶の中で河西氏は「現在まだこのように会を運営していくべきか考えていないが、副会長および幹事の人選を行い、話し合いながら新年度までには方策を立てたい」と述べた。



なごやかな懇親会風景

学内通信
新任の先生紹介
佐野妙子教授
森山裕幸助手



略歴
昭和三十三年お茶の水女子大学理学部卒業、工学博士、通産省工業技術院繊維工業試験所通産技官、東京大学宇宙航空研究所助手を経て、昭和五十五年四月より東海大学産業科学研究所勤務、昭和六十二年十月より工学部動力機械工学科勤務、専門は熱工学。

略歴
昭和五十九年東海大学大学院修士課程修了、昭和六十二年四月より東海大学に勤務、専門は材料力学。
昭和六十二年三月まで熱工学研究室で「消音器で発生する気流騒音の研究」を続けてきました。同年四月より卒業研究でお世話になった古巣の材料力学グループの一員となり、気持ちも新たに頑張っております。機友会々員のみならず、今後ともよろしくお願ひ致します。

家族づれで懇親会!!
皆様の協力をお願いしたい」とやる気十分なところを見せた。続いて会計の伊藤氏および監査の鈴木氏より留任の挨拶があつた。

総会最後の行事は待望の懇親会である。懇親会は三時四十五分から松前会館において行われた。会費は一家族五千円であり、ほとんどの会員が家族同伴であったので来賓の先生方を含めると総勢約百名の宴会であった。

先生方や友人達と酒をくみかわしながら懐しうに歓談する人、家族同士紹介し合う人、不馴れな手つきで料理をよそい、家庭サービスをしている主人などいづれも明るい笑顔に満ちていた。会の途中では子供を対象にした空くじなしのおみくじ大会も行われ、一層楽しい懇親会に盛り上がった。こうしている内に終了予定の時間となり、万才三唱して会の発展を祈り散会した。

あらゆるニーズにお応えする鋭角の頭脳集団!! (人材募集中)

solc 株式会社ソイツク

〒150 東京都渋谷区恵比寿西1丁目33番15号 EN代官山ビル
TEL (03)780-5811(代)
FAX (03)780-5819 代表取締役 大原順夫 (昭和43年度卒)

- 情報機器システムの調査研究及び開発受注
- アプリケーションソフトの開発及び運用
- オンラインリアルタイム アプリケーションシステムの設計受託
- 制御システム(電力・計測・データ通信等)の開発
- 各種ミニコン使用システムの開発

【実験室紹介】

湘南校舎十二号館

既報の通り湘南校舎十二号館が昭和六十一年春に完成しました。今回は動力機械工学科各分野の実験室、製図室を紹介いたします。在学生諸君も、この新館にすっきりなじみ、卒研、授業に日夜はげんでおります。会員諸氏の応時を回想するよすがともなれば幸甚です。後輩の勉学と学科の研究の発展にご期待下さい。

なお代々木校舎の第二工学部の研究室・実験室も四号館に集中し、すっきり模様が変わりました。これらの写真は、別の機会に掲載する予定です。



メカトロ工学実験室 中川, 川島先生
多関節ロボットの軌道制御装置および組立てロボットの制御実験装置



熱機関実験室1 高本先生
省エネルギー競技会への出場を待つエコノミーカー。61年度のホンダ主催のレースでは学生部門において654km/lの記録で見事優勝!



材料力学実験室 國本, 康井, 粕谷先生



12号館 理工学系図書館
床は厚い絨毯敷きで静寂を保ち、広々とした閲覧室。夜7時まで開館しており学生の利用率は高い。



熱機関第1実験室 小林, 市川先生
自動車の走行性能実験装置
自動車の惰行、加減速性能などの実験に用いる装置



CAD実習室の一角 斉藤, 畔柳, 森山先生
現在のところ約20台のパソコンが置かれていて、製図授業の一環としてフルに利用されている。



流体工学実験室 浅沼, 飯島, 弓野, 円能寺先生
衝突空気噴流の実験
円形(軸対称)ノズルから空気を噴出し平板に衝突させ、そのときの速度や乱れ分布を測定している。
右下には同様の実験を矩形(二次元)ノズルによって行う装置がみえる。



熱機関実験室2 田中, 鈴木(六)先生
風洞試験部に設置した平板翼の性質を調べる。



熱工学実験室 萩, 村上, 前田先生
くさびの長さが60cmの無響室で、マフラーの性能試験などに用いられる各種の管路系装置の先端部が挿入されている。



材料加工実験室 福迫, 栗山, 林先生
コンピュータ制御疲労試験機(10トン)、自作した熱交換器、輸送機械用部材のひずみ制御疲労強度および腐食疲労き裂伝播測定など材料強度に関する実験を行っている。



製図室
ビデオなど視聴覚設備も完備した、200人収容の製図室

— 各種建築板加工品製造販売 —

日本軽金属(株)地方工場
新日軽(株)代理店 ㊟JIS表示許可工場

ホクセイ日軽建材株式会社

取締役社長 立野井 健一
堀田 和成 (48年度卒) 東京営業所勤務

本社 〒933 富山県高岡市昭和町1丁目2番5号
TEL (0766) 22-0197(代)

工場・事務所 〒933 富山県高岡市本郷2丁目5番8号
TEL (0766) 24-8761(代) FAX (0766) 25-2093

東京営業所 〒103 東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番8号(大湯ビル5階)
TEL (03) 666-2751(代) FAX (03) 666-2978

趣味の効用

動力機械工学科教授

井ノ内一雄



寄稿を依頼されたのは昨年末、最終授業終了時。「ハイ、いいですよ。いつまでですか」「正月休み明けくらいです。今回の編集は軽い読物にしたい」との幹事さんの返事。「政治経済、天下国家はたまたま教育論争はやめろ」との意味と理解する。年末は買状書き。有難いことに卒業生諸兄から頂く買状が年々増え、これには一言書き添えようとするから一時間に十枚の低速。それでも総計どうにか百枚投函。年末年始は小生「ときにも二・三の訪客。二日は寒川神社へ腰痛軽減祈願、例年よりお賽銭はずんで。というようなどて正月三日、一日遅れの書き初め代りに原稿用紙取り出し、サテ何を書くべきか。

いとも軽く引き受けたことを反省しきり。苦しまぎれに昨年のニュースを思い出した。良い方は利根川先生のノーベル賞受賞以外は思い浮ばないが、悪い方は沢山ありました。まさに世の中、末世ではないかと思うほど。広島大構内大事件、モリシヤス沖南ア機墜落、次いで大韓機アングマン海墜落事件。そして双羽黒角界追放事件で昭和六十二年を終えました。航空機事故は離着陸時に多いはず、定常航行中の事故は、両者とも何等かの外的要因としか考えようがない。いずれ、納得いかないまでも結論的なものは出されるだろうが。宗教家諸氏の言を俟つまでもなく、世界全

の趣味をもちなさい。でないと心の疾いになりますよという、医者立場からの忠告であった。「凡庸の楽しみ」と仰言っている。お酒飲むなら駅前赤提灯がよろしい、赤坂の高級バーは駄目のご託宣。支払いにストレスが却てたまつてはとのご配慮。巨人応援団が、「カットパサー、タツノリ」とやっている。あれにのめりこめる人ほど幸せで、今日の憂さを忘れ明日の仕事への活力を貯えている姿なのです。ザル基、ヘボ将棋が良いのであって、プロ棋士のように何十手先を考えるのでは、苦しみの連続。苦しみはプロにまかせればよい。小生の基の基の基、動力機械の飯島先生に四子置いても駄目な程度。だから宜ろしいのです。と解釈できよう。世界の政治家達はゆとりがなく、ストレスの固まりみだり。だから、レーガンさんゴルバチョフさんおよび南北韓指針者を東京に集めて、竹下さんの音頭で、ゴルフコンペでもやり、その後日本伝統文化の赤提灯で乾盃すれば、世界の妖気狂気は雲散霧消するは必定と考えるのです。

趣味の効用を以下に再掲する。その1 藝は身を助く。小生の卒業生でお茶をやっていた学生が就職後、専務夫人のお相手をするうち、専務のお覚え目出たく重用。という例を知っている。その2 知識の拡大。小生も小花を咲かせる程度の園芸をやる。目標は一年中寒暖を問わず庭に花を絶やさないこと。これを欲張り園芸といつて専門家は嫌うそうだが、ある年突然サボテンが七・八花一斉に開花。それまで話では聞いていたが、それから本を読んで毎年咲かせる術に挑戦中。

その3 知人交流。小生、東海府中時代、現東京農工大と親善野球をやることになり、旧制中学時代硬球を握ったことのある者を集めて急造チーム編成。

NFACとカーチス・ジェニー

第二工学部 動力機械工学科教授 幸尾治朗

機友会と云う字を見ると機械関係の同窓会だと理解出来るが、耳で聞くと基友会かと思う人も少なくない。横文字を例に取れば、AIDSは「知らぬ顔しては亭主ばかりなり」と言われる位知れ渡っているが、航空機の運航技術に関係している人には飛行記録集積装置の略称として馴染が深い。日航機事故原因解明の手がかりとして機上に設置されているのに対し、AIDSは日常の整備、運航のための技術資料を飛行中に記録する。見る人、聞く人によって理解が異なる例である。IPLC(国際動力式揚力会)NFAC(国際動力式揚力会)が一九八七年十二月七日から十一日まで、米国カリフォルニア州サンタ・クララで開かれ、VTOL(垂直離着陸機)、STOL(短距離離着陸機)、STOVL(短距離離着陸・垂直着陸機)などの新技術航空機に関する研究開発、試作を行っている諸国から数百人の参加者があった。私も航空宇宙技術研究所でプロジェクト・マネジャーとしてSTOL実験機「飛鳥」の開発研究に携わっていた関係で会議に招かれ、これらのカテゴリーに属する新技術の現状について貴重な知見を得た。四日間の会議の後、参加者一同はNASAエイムズ研究所の招待でNFAC(実機風洞)の

そのメンバーに、現東海大高輪台高校長、現京都府立大教授、元大日本図書専務、元千葉県高野連副会長、元小糸製作所社長室室長で現東海大電気工学科で照明工学を教えている人、等がいて、親しくおつきあいがたい。皆さまの中に、小生を介して上記のどなたかに就職のお世話になっているのです。本学航空学科の別府教授とは前職場での野球仲間。偉い先生に近づけるのも野球の効用。ところで、最近ではカラオケブームだが、忘年会等音痴族にとっては苦痛の時期。そこで音痴と単身赴任者を含めて、一人で楽しめる趣味をお教えします。先ず唄の本を一冊買って下さい。そして気に入った文句を集めて作詩し変換するのです。所謂パロデーです。小生「北国の春」ベースの変換、傑作のつもりがあるのですが、字数が尽きた

ので、次回にご披露いたします。俳句等では、自分では上手か下手か分らないけど、パロデーは下手ほど良い。最後に皆様方にお願いを一つ。動力機械工学科卒業生「福留岳士君」の同期でお名前ご記憶の方、一片のご回向賜らんことをお願いいたします。三十三歳の若さで昨年末永眠。殉職社葬にしていたが悔いは残る。機友会の皆様。注意し過ぎるというところはごいません。くれぐれも健康第一に。八時間の睡眠をとって下さい。そして心にストレスをためないようにお願いたします。優秀な皆様は社会の中心になって、いそがしさが増すことは必定ですが、その時、この雑文思い出してくだされば望外の光栄です。おわり

披露式に参列した。NFACは同研究所が保有(一九四三年設置)していた実機風洞(縦四十四呎・横八十呎)に附設した超大型実機風洞(縦八十呎・横百二十呎)の略称である。前者が双発ビジネス機級の実機試験に用いられたのに対しNFACはボーイングB-737、ダグラスDC-9(いずれも百二十人乗り程度で、わが国でも就航中)クラスの機体(本物の飛行機)がそのまま風洞測定部におさまり、試験可能な大きさである。測定部に千人近いと思われる客を収容し、カクテル光線の行交う中でおごそかにかつ華やかに式典が行われた。この施設は宇宙飛行士によって周回軌道上から充分視認出来る大きさと云う。エイムズ研究所、NFACの見学が終了翌日、念願の複葉飛行機塔乗の機会が与えられた。ジェニー・カーチスと云えばカーチス家のジェニーちゃんと言う事になるが、カーチス・ジェニーは第一次世界大戦中に米国で作られた軍用練習機カーチス式JN4型機の俗称である。JN4型のJNからジェニーと云うニックネームがつけられた。約七十年前に設計製作を開始し、総数で数千機に達したと云う。

二人乗りの単発機で、プロペラや骨組は木製、外皮は勿論羽布張り(布製)である。ロバート・レッドフォード主演の米国映画「華麗なるヒコキ野郎」で、走行中のオープンカーから繩梯子で乗り移る場面等に登場するので、記憶している方も多いと思う。三十六番目に操縦した機種として記録しようと意気込んでいた私に取って、ついでない事には当日早朝から強風に見舞われ、格納庫内での記念撮影に終わった事は残念至極であった。サンフランシスコから十数時間間の帰途、国際会議を通じて理屈出来た各国の技術的な位置づけを振り返って考えて見た。航空機先端技術の一つであるパワード・リフト機(エンジン出力を直接に揚力として利用し短距離又は垂直離着陸を行なう航空機)の開発研究における世界の歴史そのものも考えられる。米国の航空技術発展の推移の中でしめるこの二つの事実に思い当たった時、私は納得が行く気がした。

七十年を経た布張り飛行機を一人の力で、個人の趣味として飛ばしている事実と百二十人乗りの航空機をそのままの大きさで試験可能な風洞を建造し、世界の航空工業界で占めて来た指導的立場を継続しようとする意欲の二つが共存する米国の底力を、私は痛感したのである。ジェニーと再会の日を持ちつつ記す。



カーチス・ジェニーに乗って手をふる 幸尾先生

品質は時間を生かし、人を生かす

ASK

のリアモーションユニット・システムは皆様の自動化、省力化をお手伝いします。リアモーションベアリングのバイオニア、エイエスケイにご期待下さい。

株式会社エイエスケイ

本社 東京都中央区新川1-20-6
信州工場 長野県佐久市長土呂803
TEL (0267) 68-3341

浅間テクノポリス園の中核地佐久に有る信州工場は最新鋭工場で、ただ今広く人材を求めています。お問い合わせは、信州工場長 野島(45年卒)までどうぞ。

TOKAI

東海教育産業株式会社

本社 神奈川県伊勢原市伊勢原2丁目4番26号 電話 259-11 0463-92-1881代
東京営業所 東京都渋谷区富ヶ谷2丁目29番9号 電話 151 03-469-2171代
湘南出張所 神奈川県秦野市北矢名126-13 電話 257 0463-78-5671代

在学生の声

四十の手習い

阿部 洵

(第二工学部機械工学科)



入学した時の年齢が四十歳。推薦入学の際、受け付けでは職員と間違えられ、入学式では父兄と間違えられ、又教室を見渡してもほとんど二十歳前後の人達ばかりなので私は胡散臭い目で見られ、前途多難を思わせるスタートであったが四月、五月と月日が経つうち同級生の人達と話す機会も増え、次第にクラスに溶込んで行く事ができた。特

に三保に於ける一泊の新生入生研修では十数人の人達と同じ部屋に泊り、夜を徹して話し合った(酒も多少飲みながら)事もクラスの人達に溶込むためには有意義な事だったと思う。

この様な形でスタートした学生生活であったが、年齢による記憶力の減退および生れつき頭の悪さも努力によって何とか克服し、諸先生の迷惑にならない程度に授業についていく事ができた。特異な存在であったため、諸先生方にはすぐ顔を覚えられ、公私共々いろいろな助言をいただき、又激励を受け長いようで短かった四年間を無事過ごすことができたと思つてい

る。苦しかった事は時間の制約で、授業が終了して帰宅すると十一時、食事、入浴すると十二時、それから宿題、実験報告書の作成等により睡眠時間は四、五時間の連続だった。おかげで

時間を要領よく有効利用する習慣が身についたように思う。これも夜学特有の勉強の一つであろう。

大学での勉強は終ろうとしていたが、勉強そのものには終りという事はない訳で、次の目標に向って努力する積りでいる。

最後に諸先生方の御指導、御助言に対して心より感謝すると共に、卒業後も益々の御助言、御指導をお願いします。



第二工学部に入學して

阿部理香

(第二工学部機械工学科)



高校では工業化学を学んでいましたので、全くの畑違いなのですが、高校在学中より機械設計に興味があり本学へ入学しました。入学してみると機械だとい

卒業するにあたり

椿 隆之

(第二工学部機械工学科)



この三月に卒業するにあたり学生生活の総括として第二工学部機械工学科に学び感じたこと、授業に対する要望など思いつくままに書き残したいと思う。

入学して以来四年間、昼は職場、夕方から大学の講義、おまけに私は少林寺拳法などに入っていましたから、家に着くのは

午前一時を過ぎていたのが当たり前で、その後、夜食をとりたり、宿題があればそれを片付けたりしたから、就寝はだいたい午前二時であり、満員電車で揺られながらの帰り道はいつも、早く休みにならないかなと切実に思つたものだ。(中央線はまったく酷い、深夜になつても楽に立たせてくれない)。

しかし、今思い返してみても印象に残っているのは、休日のごとではない。テスト前、明け方まで勉強し、日が昇る頃ようやく問題が解けたときのこと、実験レポートを何とか書き上げたときのことだ。

ところで、先生方はそんな我々を思いやってくか、「昼働いて夜の勉強は大変でしょう」と暖かい言葉をかけて下さったが、我々は最初からそれを承知の上で

入学したのであるから、その必要はまったくない。それよりも、一つでも多く基本的な概念を徹底的に叩き込むようにしていただきたい。その点、授業はやや甘かつたような気がした。カリキュラムに関しては、基礎的科目、電気系の科目が不足しているように感じた。全体の時間数が少ないことでもあり、機力、流体力学等機械工学の根幹をなす科目に絞つた方が良く、と考へる。また電気回路・情報処理の知識は、機械を学ぶ者にとつてもはや必須であろう。

以上、好き勝手に感想を述べさせて頂いたが、カリキュラムは変更が予定されていると聞くと、入学者も近年増加の傾向にあるようであり、今後の第二工機械科の発展を大いに期待したいと思う。

こと、夜学だということ、本学科に女子は一人でした。今でもまだたまに「女の子なのに何故機械に入ったのか」と聞かれますが、自分としては機械が特に男っぽい学問だと思つたことが無いので、その度に返事に困りました。実際、一人ぐらゐ女子学生も居るだろうと考えていたので少し残念ではありましたが、今では、本来男の子の様な性格だったのと、まわりの友人たちの気ばりに助けられ、無事二年が過ぎようとしています。

卒業式を目前に
新家公彦
(動力機械工学科)



私が大学生活に期待と不安を抱き、東海大学工学部動力機械工学科の門を潜つたのは四年前のことでした。四年間の大学生活も早いもので卒業を目前として、四年間を振り返ってみればいろいろな思い出があります。

たとえばガイダンスや履修申告のとき、初めに受けた授業三保での研修旅行での友人達との協同生活やマラソン、さらには卒業研究の発表会のことなどあげれば限りありません。このように多くの人達との出会いがあったことが、私の大学生活で得ることのできた一番の財産ではないかと思つています。いろいろなことで悩んだり、苦しんだりした時、相談に乗ってくださつた先生方や友人達に出会えたことは、私にとってどんなに励みになったかわかりません。四年間私が無事過ごせたのも、このような方々のおかげだと思ひ、心から感謝しております。私達は三月末をもちまして東海大学工学部動力機械工学科を卒業し、就職あるいは進学とそれぞれの道を歩み出すわけですが、在学中に得たものを生かし新しい環境のもとで精一杯頑張っていきたいと思つています。また、卒業後一人一人がばらばらになるのではなく、四年間にわたつて共に生活してきた者どうし、より一層の親睦を深めていくべきだと考へます。幸いにも本学科には、諸先輩方が築いてくださった機友会というものがあつたので大いに活用させて頂きたいと思つています。

東海大学機友会昭和60年度会計報告

昭和61年3月31日現在

| 収入の部 (単位 円) | 支出の部 (単位 円) |
|-----------------------------|----------------------|
| 前年度繰越金 1,901,346 | 事務諸経費 93,575 |
| 昭和60年度生会費納入金(117名) 790,000 | 総務諸経費 68,460 |
| 会報2号掲載広告料(1社分) 10,000 | 組織諸経費 43,035 |
| 3号 (1社分) 10,000 | 事業諸経費 47,725 |
| 既卒者会費納入金(16名分) 134,220 | 会報4号発行経費(諸経費) 43,000 |
| 新卒者(60年度生)会費納入金(3名分) 24,810 | 卒業生勧誘事業経費 57,213 |
| 機友会会員名簿掲載広告料 1,139,600 | 会員名簿発行事業経費 2,814,680 |
| 預金利息 三菱銀行分 1,602 | 小計 3,167,688 |
| 横浜銀行分 20,809 | 次年度繰越金 864,699 |
| 合計 4,032,387 | 合計 4,032,387 |

昭和63年1月31日
上記監査の結果、相違のない事を認める。

監査 佐々木彰
鈴木良幸

東海大学機友会昭和61年度会計報告

昭和62年3月31日現在

| 収入の部 (単位 円) | 支出の部 (単位 円) |
|-----------------------------|------------------------|
| 前年度繰越金 864,699 | 事務諸経費 115,020 |
| 昭和61年度生会費納入金(66名分) 590,000 | 組織諸経費 58,831 |
| 会報3号掲載広告料(1社分) 30,000 | 会報4号発行経費(印刷費等) 425,000 |
| 4号 (1社分) 29,200 | 卒業生勧誘事業経費 58,250 |
| 既卒者会費納入金(26名分) 198,420 | 会員名簿発行事業経費 54,900 |
| 新卒者(61年度生)会費納入金(7名分) 64,530 | 他学科同窓会祝金 40,000 |
| 機友会会員名簿掲載広告料 1,159,400 | 小計 752,001 |
| 名簿発行刊寄付金(1社分) 70,000 | 次年度繰越金 2,259,450 |
| 預金利息 三菱銀行分 1,280 | |
| 横浜銀行分 3,922 | |
| 合計 3,011,451 | 合計 3,011,451 |

昭和63年1月31日
上記監査の結果、相違のない事を認める。

監査 佐々木彰
鈴木良幸

編集後記

最後になりましたが、私が幹事長に選ばれて開催しました本学部の昭和六十二年卒業謝恩会の折には、機友会役員の数多くの御出席と、さらに温かい御言葉を賜り誠にありがとうございました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。そして、私の大学生活に良い思い出を作つてくれた東海大学工学部動力機械工学科の諸先生、先輩方及び同輩の御健康と御活躍を御祈り致します。

機友会の会報も、五号を数えるまでになり、これから増々充実した紙面になるよう努力いたしますので、ご期待下さい。

「在学生の声」は、働きながら夜、学んでいる第二工学部の学生を主に載せました。

また、卒業生の方からも沢山の記事をいただきましたが、次号に掲載する予定でおりますのでご了承ください。

大矢



レゲセル工業株式会社

代表取締役 河西正彦

本 部 千252 神奈川県横浜市上土郷701 電話0467(76)8411(代)
 藤 沢 支 店 千252 神奈川県横浜市上土郷701 FAX 0467(76)7854
 川 崎 支 店 千330 埼玉県大宮市宮原4丁目1-9 電話0486(67)4045(代)
 藤 沢 支 店 千210 川崎市川崎区大島3丁目32-6 電話044(222)1041(代)
 藤 沢 支 店 千252 神奈川県横浜市上土郷701 電話0467(77)0371(代)

(当社は東海大学卒業生で設立された会社です)

自動車部品製造業

日新工業株式会社

取締役社長 安藤忠夫 本社工場・神奈川県大和市上草柳172番地
 TEL 0462(64)1221 代表